

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/10/01.

世界経済の行方に左右されやすい展開か

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	くすぶる追加利下げ観測 予想レンジ: 77.20 ~ 82.70 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	↑	消去法で選好される可能性 予想レンジ: 62.70 ~ 66.80 円	4-5
<u>ランド/円</u>	→	利下げ観測と世界経済を両にらみ 予想レンジ: 8.80 ~ 9.70 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



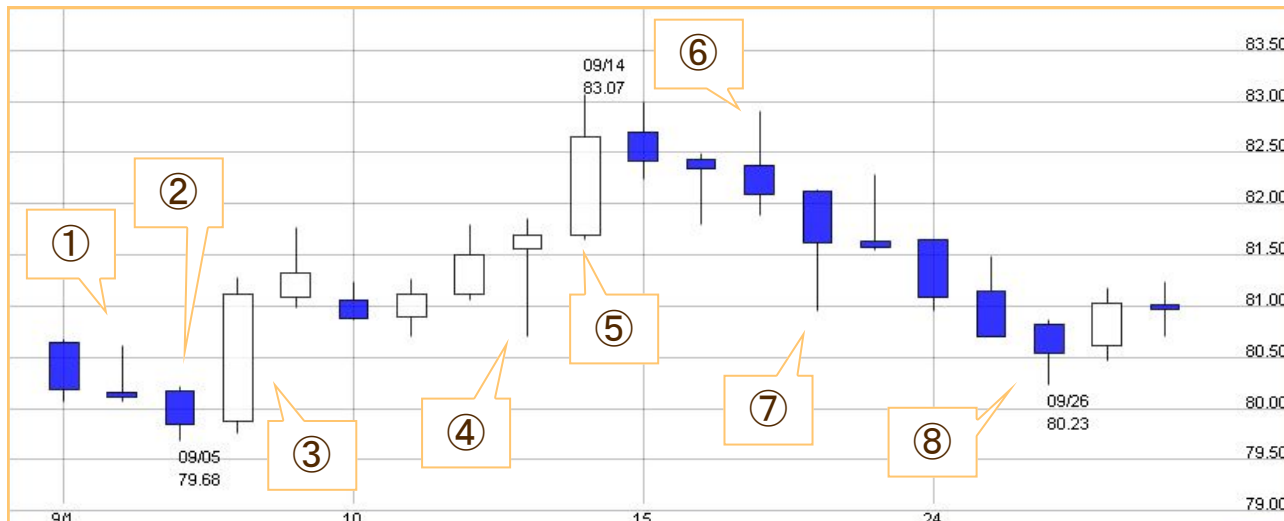
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	80.65円	83.07円	79.68円	80.97円



- ① 4日、RBAは政策金利の据え置きを発表。声明文では「最近の中国の指標の一部は弱い」と中国経済に懸念を示したが、追加利下げを示唆する内容ではなかった為、豪ドル/円は一時値を上げた。
- ② 5日、豪第2四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.6%と市場予想(+0.7%)を下回ったが、前年比は市場予想通り+3.7%となった他、前回分が前期比(+1.3%→+1.4%)・前年比(+4.3%→+4.4%)共に上方修正されたため、直後の市場の反応は限られた。しかしその後、日経平均株価や欧州株の軟調推移を背景に、豪ドル/円は7月25日以来となる79.68円の安値を記録した。
- ③ 6日、豪7月新規雇用者数が予想(0.50万人増)外の0.88万人減と伝えられたが、失業率が5.1%(予想:5.3%、前回:5.2%)となった事が好感され、豪ドルが買われた。その後、米8月ADP全国雇用者数や米新規失業保険申請件数が予想よりも強い内容となってドル/円が上昇した上、欧州中銀(ECB)の国債買い入れプログラム再開や、23時発表の米8月ISM非製造業景況指数が予想を上回った事を好感して欧米株が大幅に上昇すると、豪ドル/円は一段高となった。
- ④ 13日、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明でのQE3(量的緩和第3弾)発表を受け、ドル/円の下げに連れて豪ドル/円は一時80.70円まで下げたが、その後QE3発表を受けたNYダウ平均株価の大幅上昇を背景に、安値から1円以上値を戻した。
- ⑤ 14日、前日にNYダウ平均株価が大幅に上昇した流れを引き継ぎ、株価や資源価格が上昇すると、豪ドル/円は8月22日以来となる83.07円の高値を付けた。
- ⑥ 19日、日銀が資産買入等基金の規模の10兆円増額や、長期国債買入オペの下限金利である年0.1%の撤廃などを発表。予想外の追加金融緩和策を受けてドル/円や日経平均株価が上昇すると、豪ドル/円は大幅に上昇。ただその後、高く始まった欧州株が下落すると、豪ドル/円は下げに転じた。
- ⑦ 20日、中国9月HSBCフラッシュ製造業PMIが47.8と好不況の分岐点となる50を11カ月連続で下回った事が嫌気され、上海株や日経平均株価が下げ幅を拡大。欧州株が軟調に推移した事も重なり、豪ドル/円は80.96円まで下落。ただ、米9月フィラデルフィア連銀景況指数が-1.9と予想(-4.5)ほど悪い内容ではなかった事を受けてNYダウ平均株価が下げ幅を縮小すると、豪ドル/円は値を戻した。
- ⑧ 26日、スペイン中銀が「国内総生産(GDP)が第3四半期も急激な落ち込みとなる」との見通しを示した事などを受けてスペイン国債利回りが上昇すると、欧州株の下げに連れて豪ドル/円は80.23円まで下落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

9月の豪ドル/円相場は79.68円～83.07円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約0.1%の上昇(豪ドル高・円安)となった。日米欧で追加金融緩和を行った事でリスクを積極的に取る機運が高まり、上旬から中旬にかけて豪ドル/円は上昇したが、その後はスペイン・ギリシャに対する懸念が再浮上したのを始め、根強い中国経済の鈍化懸念からくるRBAの追加利下げ観測が上値を重くした。

10月の豪ドル/円相場は、RBA理事会がカギとなりそうだ。先月末に著名RBAウォッチャーが世界経済の減速(とりわけ中国)を理由に今月のRBA理事会での利下げを予測したことで、金利先物市場を中心にRBAの利下げ観測が強まっている。

ただ、先月の声明文では「現在の金融政策は適切」としており、エコノミストを中心に金利据え置き観測も根強い。仮に金利が据え置かれる場合、市場の関心は次回以降の利下げの可能性を占うべく、24日の第3四半期豪消費者物価指数に向かう事が予想される。RBAの追加利下げ観測がくすぶる中では上値の重い展開が見込まれ、仮に主要国で株高が進んで「リスク・オン」の環境になったとしても、豪ドル買いの勢いは一時的となりそうだ。(川畑)

(予想レンジ:77.20～82.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

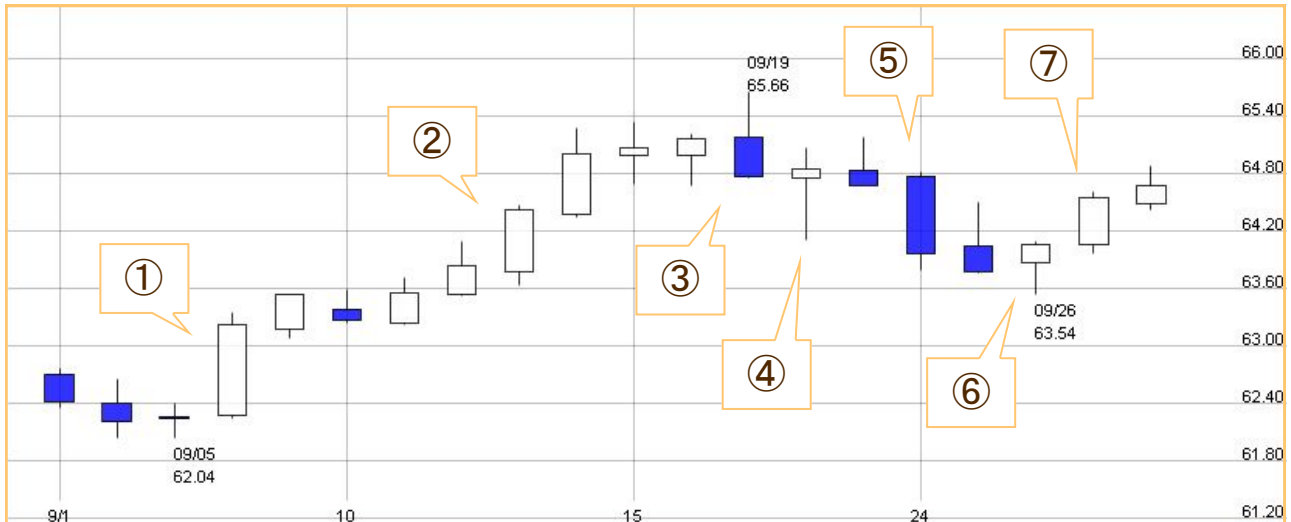
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	日銀短観	10/9(火)	8月日貿易収支
	9月米ISM製造業景況指数	10/11(木)	9月豪雇用統計
10/2(火)	RBAキャシュターゲット	10/12(金)	10月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
10/3(水)	8月豪貿易収支	10/15(月)	9月中国消費者物価指数
	9月米ADP全国雇用者数		10月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	9月米ISM非製造業景況指数		9月米小売売上高
10/4(木)	8月豪小売売上高	10/16(火)	RBA議事録
	8月豪住宅建設許可件数		9月米消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表	10/18(木)	第3四半期中国GDP
	米FOMC議事録(9月12日・13日分)	10/24(水)	第3四半期豪消費者物価
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)		FOMC政策金利発表
	9月米雇用統計	10/31(水)	9月豪住宅建設許可件数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	62.71	65.66円	62.04円	64.68円



- ① 6日、米8月ADP全国雇用者数や米新規失業保険申請件数が予想よりも強い内容となってドル/円が上昇した上、欧州中銀(ECB)の国債買い入れプログラム再開や、米8月ISM非製造業景況指数が予想を上回り、欧米株が大幅に上昇した事も重なり、NZドル/円は63.36円まで大きく値を上げた。
- ② 13日早朝、NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の2.50%据え置きを決定。その後の声明では世界経済の成長鈍化を背景に2013年のインフレ率を1.7%へと引き下げた(従来2.3%)他、NZドル高をけん制した。その後、ボラードRBNZ総裁が「経済予想は今後1年間の金利据え置き見通しと一致」と発言したが、いずれも市場の反応は薄かった。ただその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)でのQE3(量的緩和第3弾)発表を受け、ドル/円の下げに連れてNZドル/円は一時63.63円まで下げたが、その後QE3発表を受けてNYダウ平均株価が大幅に上昇すると64.46円まで値を上げた。
- ③ 19日、日銀が資産買入等基金の規模の10兆円増額や、長期国債買入オペの下限金利である年0.1%の撤廃などを発表。予想外の追加金融緩和策を受けてドル/円や日経平均株価が上昇すると、NZドル/円は65.66円まで上昇したが、その後高く始まった欧州株が下落すると下げに転じた。
- ④ 20日、NZ第2四半期国内総生産(GDP)が前期比+0.6%、前年比+2.6%と市場予想(+0.4%、+2.3%)を上回った。これを受け、NZドル/円は40銭近く急騰。しかしその後、中国9月HSBCフラッシュ製造業PMIが47.8と好不況の分岐点となる50を11カ月連続で下回った事が嫌気され、上海株や日経平均株価が下げ幅を拡大。欧州株が軟調に推移した事も重なり、NZドル/円は反落した。
- ⑤ 24日、中国の景気減速懸念から上海株が年初来安値を更新した他、スペイン政府が救済基金への全面支援の要請をためらう様子を嫌気して欧州株が下げ幅を拡大すると、リスク回避の動きからNZドル/円は大きく値を下げた。
- ⑥ 26日、スペイン中銀が「国内総生産(GDP)が第3四半期も急激な落ち込みとなる」との見通しを示した事などを受けてスペイン国債利回りが上昇すると、欧州株の下げに連れてNZドル/円は一時63.54円まで下落した。
- ⑦ 27日、中国の温家宝主席が、新規株式公開(IPO)を1年間凍結すると発言したとの観測記事を手掛かりに上海総合株価指数が後場の取引開始直後から急伸。一時3%の上昇となるとNZドルが上昇。その後、スペインのデギンドス財務相が「欧州連合(EU)の推奨を上回る改革案を計画している」「改革案はEUの提案をすべて反映する」などと発言した事を好感してNYダウ平均株価が上げ幅を拡大すると、NZドル/円は続伸した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

9月のNZドル/円相場は62.04円～65.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.8%の上昇(NZドル高・円安)となった。日米欧が追加金融緩和を行った事でリスクを積極的に取る機運が高まり、上旬から中旬にかけてNZドル/円は上昇。その後はスペイン・ギリシャに対する懸念が再び浮上した事を背景にリスク回避の動きから弱含む場面が見られたものの、スペインの予算案を好感して株価が上昇すると、NZドル/円は反発するなど、底堅さを見せた。背景には今後カンタベリー地区の震災復興需要が期待できる点や、豪州や南アフリカと違い追加利下げ観測が浮上していない点がありそうだ。

今月も中国・米国・欧州の三極のリスク許容度がNZドル相場を動かすカギとなろう。足下の相場を見ると、「リスク・オン」の局面では豪ドルや南アランドよりも選好される可能性が高い。ただ、先月のRBNZ理事会後に行われた利上げ開始時期についてのアンケートでは、従来の「2013年半ば」から「2013年後半」へと先送りされたとの意見が主流となっていた。RBNZの早期利上げ観測が後退している事を考えると、NZドルが一方的に買われる展開は期待しづらい。

一方、中国経済の減速リスクや、ギリシャ・スペイン情勢に対する懸念には引き続き注意が必要であり、リスク回避の動きが強まって主要国で株安が進む場面では、今年6月以降じり高で推移しているNZドル/円に調整が入る事も考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 62.70～66.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

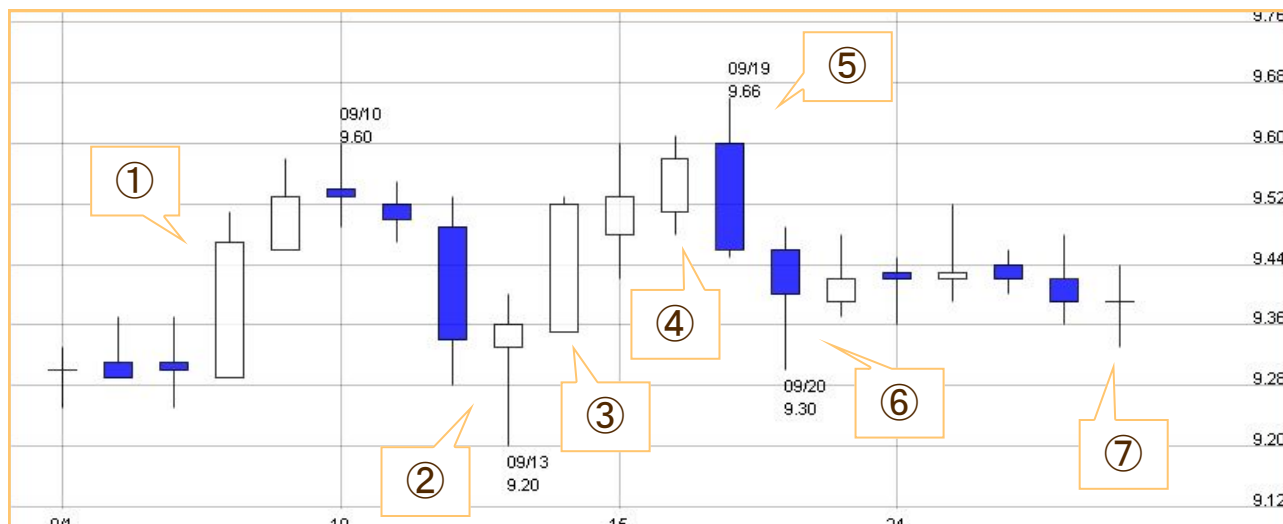
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	日銀短観	10/15(月)	10月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	9月米ISM製造業景況指数		9月米小売売上高
10/3(水)	9月米ADP全国雇用者数	10/16(火)	第3四半期NZ消費者物価
	9月米ISM非製造業景況指数		9月米消費者物価指数
10/4(木)	欧州中銀金融政策発表	10/18(木)	第3四半期中国GDP
	米FOMC議事録(9月12日・13日分)	10/22(月)	9月日通関ベース貿易収支
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	10/24(水)	FOMC政策金利発表
	9月米雇用統計	10/25(木)	RBNZオフィシャル・キャッシュレート
10/9(火)	8月日貿易収支	10/26(金)	9月NZ貿易収支
10/12(金)	10月米シガン大消費者信頼感指数・速報値	10/31(水)	9月NZ住宅建設許可
10/15(月)	9月中国消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 9月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.30円	9.66円	9.20円	9.39円



①

6日、米8月ADP全国雇用者数や米新規失業保険申請件数が予想よりも強い内容となってドル/円が上昇した上、欧州中銀(ECB)の国債買い入れプログラム再開や、23時発表の米8月ISM非製造業景況指数が予想を上回った事を好感して欧米株が大幅に上昇すると、ランド/円は9.51円まで値を上げた。

②

13日、南ア鉱山でのストライキを嫌気してランド売りが優勢となる流れを引き継ぎ、ランド/円は9.20円までの安値を記録。ただその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明でのQE3(量的緩和第3弾)実施を受けてNYダウ平均株価が大幅に上昇すると、ランド/円は引けにかけて大きく上昇した。

③

14日、前日の米FOMCでのQE3実施を受けて株高となった流れを引き継ぎ、株価や資源価格が上昇すると、ランド/円は続伸した。

④

18日、南ア鉱山でのストライキが収束したと地元メディアが報じた事を背景に、ランド/円は上昇した。

⑤

19日、日銀が資産買入等基金の規模の10兆円増額や、長期国債買入オペの下限金利である年0.1%の撤廃などを発表。予想外の追加金融緩和策を受けてドル/円や日経平均株価が上昇すると、ランド/円は9.66円まで上昇した。しかし、その後高く始まった欧州株が下落した事や、南ア7月小売売上高が前年比+4.2%と予想(+7.2%)を大きく下回ったことを受け、ランド/円は値を下げた。

⑥

20日、中国9月HSBCフラッシュ製造業PMIが47.8と好不況の分岐点となる50を11カ月連続で下回った事が嫌気され、上海株や日経平均株価が下げ幅を拡大。欧州株が軟調に推移した事も重なり、ランド/円は9.30円まで下落した。なお、その後南ア準備銀行(SARB)は市場予想通り政策金利を据え置いたが、12年の国内成長率(GDP)見通しを2.6%、13年を3.4%にそれぞれ下方修正したことで、市場ではSARBの利下げ観測が再び浮上。ランド/円は上値の重い展開が続いた。

⑦

28日、格付け会社ムーディーズが南ア長期国債の格付けを「A3」から「Baa1」に1段階引き下げ、見通しをネガティブと発表したことを嫌気して、ランドは弱含んだ。その後、21時に発表された南ア8月貿易収支が122億ランドの赤字と市場予想(69億ランド赤字)より赤字幅が拡大したことが伝えられると、ランド/円は9.33円まで弱含んだ。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

9月のランド/円相場は9.20円～9.66円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.1%の上昇(ランド高・円安)となった。序盤は同国の鉱山ストの影響により弱含んだが、中盤には日米欧での追加金融緩和を背景にリスクを積極的に取る機運が高まり、ランド/円は反発。ただ買いの勢いは長くは続かず、その後スペイン・ギリシャに対する懸念が再び浮上した事で上値の重い展開が続いた。

ランド相場を動かす要因としては世界的なリスク許容度によるところが大きい事を考えると、今月のランド/円相場は先月に続き、中国の景気減速懸念やギリシャ・スペインを始めとする欧州情勢、米国の景気回復ペースを受けた株価動向がランド/円相場の手掛かり材料となりそうだ。

なお、先月のSARB理事会の声明文で同国のGDP見通しを引き下げた事で、市場では追加利下げ観測が再び浮上しており、積極的にランドを買う動きは期待しづらい。先月末に発表された同国の格下げも重石となりそうだ。来月のSARBの金融政策発表での利下げの可能性を占うべく、今月17日の8月実質小売売上高や24日の9月消費者物価指数、30日の9月財政収支に注目したい。(川畑)

(予想レンジ:8.80～9.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
10/1(月)	日銀短観	10/15(月)	10月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	9月米ISM製造業景況指数		9月米小売売上高
10/3(水)	9月米ADP全国雇用者数	10/16(火)	9月米消費者物価指数
	9月米ISM非製造業景況指数	10/17(水)	8月南ア実質小売売上高
10/4(木)	欧州中銀金融政策発表	10/18(木)	第3四半期中国GDP
	米FOMC議事録(9月12日・13日分)	10/22-31	9月南ア生産者物価指数
10/5(金)	日銀金融政策決定会合(4日～発表)	10/22(月)	9月日通関ベース貿易収支
	9月米雇用統計	10/24(水)	9月南ア消費者物価指数
10/9(火)	8月日貿易収支		FOMC政策金利発表
10/12(金)	10月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	10/30(火)	9月南ア財政収支
10/15(月)	9月中国消費者物価指数	10/31(水)	9月南ア貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。